科目No. 32	配当時期	担当者
科目名 臨床心理学 時間割表記名 臨床心理学	3年次前期 単位数 1単位 時間数 16時間（8回）	永吉 悠暉（ながよし ゆうき）

科目のねらい	ディプロマ・ポリシーとの関連	
人間の発達と適応における心の問題に焦点を当て、臨床心理学を基にした人間理解と援助の基本を学ぶ	○	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
		2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
科目全体のねらい・授業目標 臨床心理学を基にした人間理解と援助の基本を習得することを目指す。 ・援助関係技術（特にコミュニケーション技術）を体得する。 ・自己理解と他者理解との関連で、心理検査法の知識を得る。 ・心理療法から見たものの考え方を身につける。 ・人間観がさまざまなアプローチに与える影響について知る。	○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
		4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
		5. 看護を探求しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

第１回　臨床心理学とその歴史

第２回　心理アセスメント①：知能検査

第３回　心理アセスメント②：性格検査

第４回　心理療法①：心の構造

第５回　心理療法②：援助技法

第６回　心理療法③：認知行動療法

第７回　心理療法④：芸術療法　※サインペン（黒）、クレヨンが必要です。

第８回　看護と臨床心理学

※カウンセリングの技法等に関する演習も取り入れ、援助関係技術の確実な定着を目指す。

受講上の注意

1. 毎回の授業の終盤に、その回の印象に残ったことや感想を書いていただきます。
2. 授業終了後には、わからなかったところや、興味を持ったことなどを各自で調べるなどして、知識を深め、積極的に学ぶ姿勢で臨んでください。

評価方法

1. 出席・・・16点
2. レポート・・・34点
3. 筆記試験・・・50点

使用するeテキスト

使用するテキスト

参考となるeテキスト

心理学

参考文献

伊藤良子編著、いちばんはじめに読む心理学の本①　臨床心理学-全体的存在としての人間を理解する-ミネルヴァ書房、2009年

科目No. 33	配当時期	担当者
科目名　公衆衛生学 時間割表記名　公衆衛生学	3年次全期 単位数　1単位 時間数　30時間（15回）	たけたに　ちづよ 竹谷 千津代

科目全体のねらい

地域における組織的な健康管理活動について学ぶ

授業目標

公衆衛生とは公（国）が衆（みんな）の生（生命・生活・生産）を衛（まもる）ことである。
みんなの生を衛ために組織的な取り組みが公衆衛生活動であり、日々の生活と密接な関係にあること、地域活動であることを理解する。
公衆衛生の理念や幅広い学問体系から学び、広い視野で自分の立つ地域社会・国・世界の人の健康について考える力を養う。
さまざまな健康支援のありかたを学び、健康の保持・増進・疾病予防について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探求しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

第１回　はじめに―いのちと公衆衛生―

第２回　公衆衛生の理念―健康と人権―
1 健康とは　2 プライマリーヘルスケア　3 ヘルスプロモーション

第３回　公衆衛生の基礎―公衆衛生のしくみと地域保健―
1 政策　2 国と地方自治体　3 専門職　4 住民との協働

第４回　公衆衛生の基礎―疫学と保健統計―

第５回　社会保障制度及び医療制度・介護保険制度

第６回　環境と健康Ⅰ　1 環境とは　2 地球規模の環境

第７回　環境と健康Ⅱ　1 身の回りの環境　2 住まいの環境

第８回　グローバル化する世界と公衆衛生―国際保健―

第９回　感染症の動向と感染症対策

第10回　社会の背景と母子保健

第11回　社会の背景と成人保健・老人(高齢者)保健

第12回　社会の背景と精神保健・難病保健・障害者保健

第13回　社会の背景と歯科保健・学校保健

第14回　社会の背景と産業保健・健康危機管理・災害保健

第15回　公衆衛生のまとめ

受講上の注意

予習：テキスト及び国民衛生の動向の該当する箇所を読んで授業に臨む。
復習：配布資料・テキスト・国民衛生の動向・紹介書籍等により学習を深める。

評価方法

筆記試験　100点

使用するeテキスト

公衆衛生（医学書院）

参考となるeテキスト

使用するテキスト

国民衛生の動向（厚生労働統計協会）
※８月～９月に発行され次第配布します。
公衆衛生がみえる（メディックメディア）

参考文献

講義のなかで紹介

科目No. 36	配当時期	担当者
科目名　関係法規	3年次前期	かだ　まき 嘉田　真希 （看護保健学科）
時間割表記名　関係法規	単位数 1単位	
	時間数 30時間（15回）	

科目のねらい

医療従事者として国民の健康を守り、職責を正しく遂行するために、わが国の保健医療福祉に関する諸制度の概要とそれを規定する諸法令を理解する。

授業目標

人間の生命、健康に携わる職責を全うするために、医療関係法令の理解ができる。
保健医療福祉に関する諸制度が理解できる。
医療専門職者または個人として、法規を遵守すること、遵守されることの大切さがわかる。

ディプロマ・ポリシーとの関連	
○	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
○	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
○	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
	5. 看護を探求しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

回数	学習内容	学習成果	備考
1回	法の概念が理解できる 衛生法の沿革が理解できる	法の概念、民法・刑法 現在の医療に関する法律、制度が成立するまでの沿革	講義
2回	保健師助産師看護師法が理解できる	保健師助産師看護師法の目的・定義・内容	講義
3回	看護師等の人材確保の促進に関する法律が理解できる 医療法と医療体制が理解できる	看護師等の人材確保の促進に関する法律の目的・定義、内容 医療法の目的、定義、内容	講義
4回	医療を支える法が理解できる 災害時の法が理解できる	医師法等の他職種に関する法律、臓器移植法、死体解剖保存法、 災害対策基本法、災害救助法の目的・定義・内容	講義・演習
5回	地域保健法、健康増進法が理解できる	地域保健法法、健康増進法の目的・定義・内容	講義・演習
6回	精神保健福祉法が理解できる	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、 心身喪失者等医療観察法の目的・定義・内容	講義・演習
7回	母子保健法、母体保護法が理解できる 学校保健安全法が理解できる	母子保健法・母体保護法、学校保健安全法の目的・定義・内容	講義・演習
8回	個別の疾病等対策に関する法令が理解できる	自殺対策基本法、がん対策基本法、肝炎対策基本法、難病の患者に対する医療等に関する法律の目的・定義・内容	講義・演習
9回	感染症に関する法令が理解できる①	感染症法、検疫法の目的・定義・内容	講義・演習
10回	感染症に関する法が理解できる② 食品に関する法令が理解できる	予防接種法、食品安全基本法、食品衛生法の目的・定義・内容	講義・演習
11回	薬務法が理解できる	医薬品医療機器等法、麻薬及び向精神薬取締法等の目的・定義・内容	講義・演習
12回	社会保険法が理解できる	健康保険法、国民健康保険法、高齢者の医療の確保に関する法律、 介護保険法、国民年金法の目的・定義・内容	講義・演習
13回	福祉に関する法律が理解できる	社会福祉法、生活保護法、児童福祉法、児童虐待防止法 高齢者福祉法の目的・定義・内容	講義・演習
14回	障害分野に関する法律が理解できる 労働法と社会基盤整備に関する法律が理解できる①	障害者基本法、障害者総合支援法、障害者虐待防止法 労働基準法、労働安全衛生法の目的・定義・内容	講義・演習
15回	労働法と社会基盤整備に関する法律が理解できる② 環境保全に関する法が理解できる	雇用保険法、育児介護休業法、環境基本法、 地球温暖化対策の推進に関する法律の目的・定義・内容	講義・演習

受講上の注意

①授業中に毎回、看護師国家試験の過去問題で知識確認をします。
②レポートは、医療過誤と興味のある法律と指定法律１つ、レポート用紙３枚分です。グループで発表します。
③課題の評価は、レポート内容とグループで発表時の正確性、内容量、明確性、期限厳守です。

評価方法

課題　２０点
（レポート提出・発表）
筆記試験　８０点

使用するeテキスト

看護関係法令（医学書院）

使用するテキスト

公衆衛生がみえる（メディックメディア）

参考となるeテキスト

参考文献

講義で適宜、紹介します。

科目No. 38	配当時期	担当者
科目名　保健統計	3年次前期	かわさき　てつし　たくま　きょうみ 河﨑哲嗣・詫摩京未
時間割表記名　保健統計	単位数 1単位	
	時間数 30時間（15回）	

ディプロマ・ポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
○	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探求しつづける力を身につけている

科目のねらい

統計とは何か、その解釈及び解釈の基礎知識について学ぶ。

授業目標

初等中等教育レベルの基本的な数学の概念を活用した統計処理に関わる内容を理解し，社会通念として必要な統計的判断力を培う。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

第１回　オリエンテーション，視覚資料（表・図・グラフ）からデータ全体の様子を掴む
（種類と特徴）棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフ・帯グラフ・レーダーチャート，分割表（クロス集計表）

第２回　連続量となるデータの分布を視覚資料で捉えよう
ドットプロット図，度数分布表，ヒストグラム，相対度数分布表

第３回　数値からデータ全体の様子を掴む(その１)
分布の中心（平均値・中央値・最頻値）

第４回　数値からデータ全体の様子を掴む(その２)
分布の広がり（範囲，分散、標準偏差）

第５回　視覚資料と数値の両面からデータの様子を捉える（その１）
ドットプロット図・ヒストグラム・箱ひげ図と四分位範囲・四分位偏差・標準偏差を対照

第６回　視覚資料と数値の両面からデータの様子を捉える（その２）
2種類の定量データの相関を視覚資料で分析する（相関図・散布図・回帰直線）

第７回　視覚資料と数値の両面からデータの様子を捉える（その３）
2種類のデータの相関「定量データを数値を用いる」相関係数，「定性データを表を用いる」クロス集計表

第８回　記述統計の復習と演習（グループ研究の課題確認）
確認テストと課題学習のレポート提出

第９回　課題研究のプレゼンテーション
記述統計を用いた研究発表（研究の背景・目的・内容・方法・分析・結果・考察・まとめ・課題と展望）

第10回　確率変数と確率分布
確率分布と棒グラフ（面積と確率），標準正規分布N(0,1)の確率の求め方

第11回　正規分布の確率計算
正規分布を標準正規分布に変換して，各種問題を考える

第12回　母集団と標本調査
母平均と標本平均・標本平均の標準偏差・大数の法則・中心極限定理

第13回　標本から母集団の未知の特徴を判断する（統計的推定）
母平均の区間推定・母比率の区間推定

第14回　母集団について立てた仮説を標本に基づいて検証する
クロス集計表を用いて，観測度数と期待度数の「ずれ」の度合い（χ^2検定への入り口）

第15回　意味あるものか、偶然か（有意性の問題）　仮説検定への入り口
母集団について立てた仮説を標本から検証する（帰無仮説と対立仮説の考え方）

統計的推測

受講上の注意

受講者の実態によって講義内容を変えることがある.
患者やその家族のお気持ちを感じ取る姿勢の１つとして、マナーを大切にしてください。当然遅刻・飲食・私語・携帯電話・メール・居眠り・内職等は厳禁です。√機能付きの電卓，定規・コンパス・グラフ用紙を必ず準備のこと。

評価方法

平常　20%
（授業中小テスト、レポート、９割以上の提出が必要、授業中態度）
筆記試験　80%

使用するeテキスト

使用するテキスト
特になし（プリント学習が中心、必要とあれば講義中に紹介する）

参考となるeテキスト

参考文献
総務省統計局，『なるほど統計学園』，https://www.stat.go.jp/naruhodo/
山田　覚，『医療・看護のためのやさしい統計学』，東京図書

科目No. 40	配当時期	担当者
科目名　看護学原論Ⅱ	3年次全期	佐藤 泰子（6回） 赤毛 智美（2回）
時間割表記名　看護学原論Ⅱ	単位数 1単位	
	時間数 16時間（8回）	

科目全体のねらい

看護の歴史的変遷を学び、高度に進展する保健医療福祉の中で、
人間の尊厳や人権を尊重する看護を追及する

授業目標

1．看護の歴史的変遷について学習し、看護の本質について考え、これからの看護を展望する
2．人間の営みを倫理的に考え、倫理的感受性を高める。そして意思決定支援を支える能力を培う。

ディプロマ・ポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
○	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探求しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

	回数	学習内容	方法	学習成果
佐藤	1回目	「倫理」って何？迷いのなかを生きる医療者たち	講義	臨床で避けることができない「援助者の迷い」を手がかりに「なぜ医療倫理を学ぶのか」について理解する。
	2回目	直観の限界と倫理学	講義	倫理的判断において直観が許すこととその限界を知る。また自分の思考傾向に潜む直観の役割を自覚する。　テキストpp.70-73
	3回目	医療倫理を基礎づける倫理理論①（功利主義・義務論・徳理論）	講義	倫理的判断のための倫理理論（功利主義、カントの義務論、ハーストハウスの徳理論）について学び、事例をもとに理解できる。テキストpp.73-84
	4回目	医療倫理の4原則、看護倫理その他（インフォームド・コンセント、守秘義務など）	講義	医療における４つの倫理原則、看護倫理を知り、さらにインフォームド・コンセントや守秘義務などの概念や規範について理解する。テキストpp.85-97
	5回目	「医の倫理」の背景	講義	「医の倫理」を獲得するにいたる過程で何があったのかについて知るために、医療史、進化論、優生思想などを概観し、「医の倫理」の背景を知る。テキストpp.63-68
	6回目	NBM(narrative based medicine)	講義	倫理理論は常に理論同士の衝突があり、援助者は事案の前で葛藤する。倫理理論だけでは解決に至らない事案が多い臨床においては、関係者間のコミュニケーションが重要な意味をもってくる。そこでケアの一助となるnarrative based madicine を学び、コミュニケーションの援助性を理解する。テキストpp.131-160
赤毛	7回目	事例検討の準備	ディベートまたはグループワーク	意思決定支援について考える。事例検討を行う準備ができる
	8回目	事例検討	ディベートまたはグループワーク	倫理的課題を考える上で倫理理論を確認し、意思決定支援における道筋がみえる。

受講上の注意

Google formsで授業毎にコメントを送信する。
①Google formsのURL、QRコードは初回授業で提示する。
②授業内容を簡潔にまとめて自分の意見も記述する。
グループワークやディベートでは自分の意見を説明し、他者の意見を良く聴き理解するように努力してください。

評価方法

課題評価
佐藤：　90点
赤毛：　10点

使用するeテキスト

参考となるeテキスト

使用するテキスト

『死生の臨床人間学　－「死」からはじまる「生」－』 晃洋書房

参考文献

適宜紹介します

科目No. 52	配当時期	担当者
科目名　地域・在宅看護活動論Ⅰ	3年次前期	池田　恵（9回）
	単位数	赤毛　智美（4回）
時間割表記名　地域・在宅看護活動論Ⅰ	1単位	白石（しらいし）　裕子（ゆうこ）（2回）
	時間数	
	30時間（15回）	ディプロマポリシーとの関連

科目全体のねらい

療養者と家族の生活を支える、地域・在宅看護のアセスメントと技術について学ぶ

	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探求しつづける力を身につけている

授業目標

・地域・在宅で療養する療養者と家族への看護について理解する
・地域・在宅における生活支援技術・診断治療に伴う看護技術について理解する。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

回数	学習内容	学習成果	備考
1回目	地域で療養生活を送る人と家族のアセスメント	フィジカルアセスメントとヘルスアセスメント	
2回目	在宅療養者の内服管理	在宅での内服管理に対する看護の実際について理解する。	
3回目	在宅酸素療法（HOT）	在宅酸素療法（HOT）の適応、在宅看護の実際と看護の役割について理解する。	
4回目	在宅人工呼吸療法と排痰法	在宅人工呼吸療法（HMV)の適応と看護の実際、排痰法に関する在宅看護技術について理解する。	
5回目	在宅酸素療法（HOT）と在宅人工呼吸療法の管理	在宅人工呼吸療法（HMV)の適応と看護の実際、排痰法に関する在宅看護技術について理解する。	
6回目（白石）	経管栄養	経管栄養の種類と適応、合併症と対処方法、看護の実際について理解する。	
7回目（白石）	在宅中心静脈栄養法	在宅中心静脈栄養法（HPN）の適応、看護の実際について理解する。	
8回目	がん治療	在宅療養者のがん治療について理解する。 在宅での治療管理方法、生活を考える。	
9回目	疼痛管理	在宅療養者の疼痛管理について理解する。 在宅での疼痛管理に対する看護の実際について理解する。	
10回目	尿道留置カテーテル	尿道留置カテーテルの種類と適応、合併症と対処方法、看護の実際について理解する。	
11回目	腹膜透析	腹膜透析の適応、看護の実際について理解する。	
12回目	地域・在宅看護を支える技術① 演習に向けての準備学習	演習に向けたグループワーク（訪問看護の実際を考える）	
13回目 14回目	地域・在宅看護を支える技術② 演習	演習（訪問時のバイタルサイン測定）	
15回目	地域・在宅看護を支える技術③ 演習の振り返り	演習の振り返り	

受講上の注意

遅刻・欠席・忘れ物・居眠りのないように臨んでください。
※外部講師の方の都合により、授業の順番が前後することがあります。

評価方法

課題点（20点）
筆記試験
（池田50点、赤毛20点、白石10点）

使用するeテキスト

地域・在宅看護の基盤（医学書院）
地域・在宅看護の実践（医学書院）
基礎からわかる地域・在宅看護論（照林社）

使用するテキスト

公衆衛生がみえる（メディックメディア）

参考となるeテキスト

看護学生スタディガイド（照林社）

参考文献

科目No. 53	配当時期 3年次全期	担当者 池田　恵（8回） 赤毛　智美（5回） 堤（つつみ）　風馬（ふうま）（2回）
科目名　地域・在宅看護活動論Ⅱ 時間割表記名 地域・在宅看護活動論Ⅱ	単位数 1単位 時間数 30時間（15回）	ディプロマポリシーとの関連

科目全体のねらい

地域で健康問題を抱えながら療養生活をおくる対象の健康状態の変化に応じた看護について学ぶ

授業目標

・暮らしの場で療養する対象への看護について学ぶ
・地域・在宅看護の対象への継続看護、多職種連携について学ぶ

	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
○	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
○	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探求しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

回	学習内容	備考
1	地域・在宅で療養する対象への看護過程 在宅療養者の病期に応じた看護	
2		
3		
4	筋萎縮性側索硬化症（ALS)の在宅療養者への看護①	
5 6	筋萎縮性側索硬化症（ALS)の在宅療養者への看護② ・コミュニケーション	演習
7	人工呼吸器使用の在宅療養者への導入期の看護の実際	外部講師
8	在宅療養児と家族への看護の実際	外部講師
9	褥瘡予防、褥瘡処置が必要な療養者への看護（褥瘡予防と排便コントロール）①	
10 11	褥瘡予防、褥瘡処置が必要な療養者への看護（褥瘡予防と排便コントロール）② ・坐薬 ・プレ発表会	演習
12 13	褥瘡予防、褥瘡処置が必要な療養者への看護（褥瘡予防と排便コントロール）③ ・訪問看護の実際	発表会
14	リスクマネジメントの実際（感染対策）	
15	地域包括ケアシステムにおける在宅看護の役割	

受講上の注意

遅刻・欠席・忘れ物のないように臨んでください。
ＧＷ時の欠席者は減点します。
ＧＷによる発表は点数化し評価します。
※外部講師の方の都合により授業の順番が前後することがあります。

評価方法

課題（50点）
（資料作成、グループワーク、発表会）
筆記試験
（池田20点、赤毛15点、堤15点）

使用するeテキスト

地域・在宅看護の基盤（医学書院）
地域・在宅看護の実践（医学書院）
基礎からわかる地域・在宅看護論（照林社）

使用するテキスト

公衆衛生がみえる（メディックメディア）

参考となるeテキスト

看護学生スタディガイド（照林社）

参考文献

科目No. 55	配当時期	担当者
科目名 対象別保健論 時間割表記名 対象別保健論	3年次全期 単位数 1単位 時間数 30時間（15回）	柴田　明美 今堀（いまほり）　幸弘（ゆきひろ） 田淵　眞由美（看護保健学科） 澤田（さわだ）　典子（のりこ）

科目のねらい

成人・母性・小児・老年・精神におけるそれぞれの発達段階と保健課題について学び、保健課題達成を目指す。また、社会資源について学ぶ。

授業目標

生活者を対象とした保健活動の実際を学ぶ

	ディプロマ・ポリシーとの関連
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
○	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
	5. 看護を探求しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

回		学習内容と成果	方法	備考
1	柴田	ライフステージ各期で展開される保健活動	講義・ワーク	
2		暮らしの中の母子保健	講義・ワーク	
3		妊産婦を対象とした母子保健活動		
4		乳幼児を対象とした母子保健活動		
5		暮らしの中の成人保健	講義・ワーク	
6		成人を対象とした成人保健活動		
7		高齢者を対象とした成人保健活動		
8		地域で展開される、住民を含む関係者との連携と	講義・ワーク	課題10点
9		ソーシャルキャピタルの醸成		
10		発表会・まとめ	ワーク等	
11	今堀	精神保健の動向と課題と施策	講義	ポストテスト（15点）
12		社会病理を背景とする主な疾患と予防	講義	
13	田淵	学童期の健康問題と保健（学校保健）	講義	出席・課題5点
14	澤田	働く者の健康問題と保健（産業保健）	講義	出席・課題10点
15				

受講上の注意

ポストテストは欠席は０点です。

第13・14・15回目の講義は、受講レポートの提出により評価します。

毎回きちんと出席して積極的に授業に参加してください。

評価方法

筆記試験60点・課題10点（柴田）

ポストテスト　15点（今堀）

出席・課題　15点（田淵・澤田）

使用するeテキスト

成人看護学総論／精神看護の基礎（医学書院）

小児看護学概論／老年看護学（医学書院）

母性看護学概論（医学書院）

使用するテキスト

国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

公衆衛生がみえる（メディックメディア）

参考となるeテキスト

看護学生スタディガイド（照林社）

参考文献

科目No. 59	配当時期	担当者
科目名　臨床判断の基礎	3年次全期	阿形 奈津子
	単位数	しみず　かつひこ 清水　克彦
	1単位	演習担当（外部）
時間割表記名　臨床判断の基礎	時間数	
	30時間（15回）	

科目のねらい

健康レベルに応じた対象の状態（病期・症状）をとらえ、その場、その時に適切な判断ができ、状況に応じた看護が実践できる臨床判断能力を培う

授業目標

1．事例を理解し対象の状態に応じたアセスメントを適切に行うことが出来る。
2．健康状態の変化を臨床判断モデルをもとに分析できる。
3．臨床看護師と共に、変化する事例の状態を判断する思考過程を学ぶ。

ディプロマ・ポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探求しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

回数	学習内容	方法	学習成果
1･2	事例①（発熱の事例）の変化をとらえ、臨床推論における思考様式を活用し臨床判断に活かすことができる。	講義 個人学習 演習	1．臨床判断の基礎の講義概要が理解できる。 2．臨床推論の必要性と活用法について理解できる。 3．臨床推論における思考様式が整理できる 4．臨床判断と臨床推論の意味が理解できる。
3･4 （清水）	事例②（呼吸困難の事例）の変化をとらえ、臨床推論における思考様式を活用し臨床判断に活かすことができる。	講義 演習	1．事例を通して、臨床推論のための思考が理解できる 2．事例の臨床推論の応用と、臨床の事例をもとに思考の幅を広げる ※臨床推論の思考を事例をもとに展開し考察する
課題	臨地実習を通して臨床判断と感じた経験を抽出する	※臨地での体験を通して学びを深めるための教材の抽出ができる	
5	臨地実習での事例を臨床判断モデルで展開する。（学生の事例を活用し具体的な展開について理解）	講義 演習	臨床判断モデルの活用・ワークシートの活用
6	臨地で経験した事例を臨床推論の思考様式で振り返り共有する ①	講義 演習	臨床判断モデルの活用（個人ワークで事例の具体化）
7･8	各自の臨床事例をグループで発表し共有する。 グループで深めたい事例を決定し検討する。（シナリオ作成）	講義 演習	グループワークを通して、臨床判断事例について検討し、臨床判断モデルのプロセスにおける思考を整理する。
9	事例の検証のための資料（動画撮影）を作成する	GW 演習室	OSCEを実施、臨床看護師によるリフレクションにより学びを深める（看護演習室）
10･11	演習【臨床実習での事例を通して臨床判断の思考について臨床看護師と共に振り返る】	発表 GW	臨床看護師と共に動画視聴し臨床判断における課題が明確にできる（５チーム・小演習室）
12･13	発表会　臨床判断に必要な能力とは	発表会	発表会（東館大教室）
14･15	事例の概念的思考（コンセプト）を見出すとは コンセプトを理解し、思考を	講義 個人ワーク	臨床判断の思考のまとめ

受講上の注意

この授業では、臨床実習での自己の事例を丁寧に深めることが必須です。
領域別実習で自己が学びを深めた事例を１事例選択し、それを活用します。
グループで深めたワーク事例は動画撮影し、臨床看護師と共に検証します。
これらの一連の過程を通して、臨床判断で重要なコンテクストを培い、次の臨床判断過程に活かす。

評価方法

演習課題達成状況　60点
ルーブリックによる自己評価　20点
発表会成果・グループ評価　20点

※筆記試験なし

使用するeテキスト

アセスメントに自信がつく臨床推論入門（メディカ出版）

参考となるeテキスト

臨床看護総論（医学書院）

使用するテキスト

参考文献

hristina A Tanner．和泉成子訳：
看護実践におけるclinical Judgement，インターナショナルナーシングレビュー，23（4），66-77．2000

科目No. 60	配当時期	担当者
科目名　多職種連携	3年次全期	阿形　奈津子
時間割表記名　多職種連携	単位数　1単位	吉田（よしだ）　幸世（ゆきよ）・堤（つつみ）　風馬（ふうま）
	時間数　30時間（15回）	

科目のねらい

「対象を社会の中で生活する人」ととらえ健康問題を持つ人が社会で生活するためには多職種との連携は重要であり、地域、病院、施設、在宅で生活する対象と医療をつなげる能力を養う

授業目標

1．看護師が健康問題をもつ人が社会で生活するために必要な多職種が理解できる。
2．社会で生活するために必要な事柄に関連した多職種との連携について具体的に理解できる。
3．様々な多職種と事例をもとに具体的な支援について考えられる。

ディプロマ・ポリシーとの関連	
○	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
○	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
	5. 看護を探求しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

回数	学習内容	方法	学習成果
1	講義ガイダンス（展開・事例・演習）	講義	
2	【いのち】をつなぐ	個人学習	救急看護の場における多職種との連携
3（吉田）	病院での多職種との連携の実際		回復期病棟における多職種連携（外部講師）
4	多職種連携演習に向けた事例の提示	講義 個人学習	事例Aさんの情報から全体像を理解する（個人ワーク） 事前学習と確認テスト（小テスト）
5･6	事例Aさんの社会復帰に向けた多職種への提言	GW 発表会	長期目標・短期目標の設定と看護職の役割理解
7（堤）	在宅での多職種連携	講義	訪問看護の場における多職種連携（外部講師）
8･9･10	事例Aさんのニードをふまえたケアプランの作成	GW	多職種との演習に向けたAさんのニードを実現するためのケアプランを作成し、看護職としてプレゼンテーションの準備
11･12	京都医健専門学校との多職種連携演習	合同演習	看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士と共に事例Aさんのケアプラン作成に向けたチームカンファレンス
13･14	多職種連携演習を体験しケアプランの修正と発表	GW 発表会	演習を通して多職種の中での看護師の役割をケアプランの見直しから整理する
15	「team医療における看護師の役割・機能」のレポート作成	課題	課題レポート作成

受講上の注意

本授業は多職種との連携について実際に理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の学習をしている学生の方と事例のケアプランを作成する、実践に近いものです。
授業の多くは演習です。皆で協力し、協働しながら進めてください。
第11回・12回の合同演習は他校の方との演習です。ここは参加点10点配点とします。必ず出席してください。

評価方法

演習課題達成状況　60点
グループ評価による自己評価　20点
発表会・課題レポート　20点
※小テスト含む
※筆記試験はありません

使用するeテキスト

使用するテキスト

参考となるeテキスト

参考文献

科目No. 65	配当時期	担当者
科目名　成人看護学方法論Ⅲ 時間割表記名　成人看護学方法論Ⅲ	3年次前期 単位数 1単位 時間数 30時間（15回）	森田　真帆（13回） 野口（のぐち）　直美（なおみ）（2回）

科目のねらい

健康問題を抱えながら生活を営む対象者の理解を深める
慢性疾患の中での健康状態の変化に応じた看護、セルフマネジメントに向けた看護について理解を深める

授業目標

生涯にわたり慢性疾患と共に生きる成人期の対象とその家族へのセルフマネジメントの支援の方法が理解できる

ディプロマ・ポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
○	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
	5. 看護を探求しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

回数	学習目標	場所	学習内容	方法
1回目	慢性期疾患の特徴と社会の動向が理解できる　セルフマネジメントの概念が理解できる	教室	慢性期疾患の特徴・社会の動向 セルフマネジメントの概念・成人教育学	講義
2回目	事例を基にセルフマネジメントの視点で生活者である患者を捉える方法が理解できる	教室	領域１．ヘルスプロモーション 対象理解	講義・ワーク
3回目	患者の生活に応じたセルフマネジメントの支援を考える事ができる	教室	目標設定　ケア計画	講義・ワーク
4回目	膠原病と共に生きる患者のセルフマネジメントの支援ができる	教室	全身性エリテマトーデス・関節リウマチの病態生理と看護 運動をテーラーメードしてみよう	個人テスト・講義
5回目		教室	ステロイド内服中の患者への支援をしてみよう	講義・ワーク
6・7回目（野口）	人工肛門の管理をしながら生活する患者のセルフマネジメントの支援が理解できる	教室	人工肛門造設が必要となった患者の病態生理と看護	講義
		演習室	ストーマ管理中のパウチ交換指導をしてみよう	演習 課題
8回目	透析療法を受ける患者のセルフマネジメントの支援が理解できる	教室	腎不全の病態生理と看護	個人テスト・講義 講義
9回目		演習室	透析療法を導入する患者への支援をしてみよう	演習
10回目	がんと共に生きる患者のセルフマネジメントの支援が理解できる 化学療法・放射線療法を受ける患者のセルフマネジメントの視点が理解できる	教室	化学療法・放射線療法の副作用および症状と看護 治療と予防をテーラーメードしてみよう	個人テスト・講義 ①
11回目		演習室	化学療法・放射線療法当日の患者への支援をしてみよう	演習
12回目	糖尿病と共に生きる患者のセルフマネジメントの支援が理解できる	教室	糖尿病の病態生理と看護	個人テスト・講義 課題
13回目		演習室	血糖測定とインスリン注射の指導を計画してみよう	演習 ①⑤
14回目		演習室	血糖測定とインスリン注射の指導をしてみよう	演習 ①⑤
15回目	セルフマネジメント支援における評価の視点と課題が明確にできる	教室	看護の教育的関わりモデル ファネル　エンパワメントアプローチ	ワーク

受講上の注意

解剖生理学・病態生理学の内容を復習した上で臨んでください
TBLでは各授業毎に病態・治療・看護に関するテストを行います。
事前に学習しておくこと。

評価方法

個人テスト	４０点
課題	３０点
筆記試験	３０点

使用するeテキスト

アレルギー・膠原病・感染症（医学書院）
消化器（医学書院）腎泌尿器（医学書院）
内分泌・代謝（医学書院）
医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎（医歯薬出版）※２年次「健康教育論」で使用
成人看護学総論（医学書院）

使用するテキスト

科目No. 68	配当時期	担当者
科目名　老年看護学方法論Ⅱ	単位数　3年次前期	横関　智恵
時間割表記名　老年看護学方法論Ⅱ	時間数　1単位　30時間（15回）	

科目のねらい

老年期に特徴的な症状と健康問題、および看護を学ぶ

授業目標

①高齢者に特徴的な症候、症状とその看護が理解できる。
②高齢者の健康障害時の看護が理解できる。
③治療を受ける患者の看護が理解できる。

ディプロマ・ポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
○	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
○	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
	5. 看護を探求しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

回	学習内容	方法	学習成果	テキスト
1	健康逸脱からの回復を促す看護	講義	認知症のアセスメントと看護について理解できる 認知症のある高齢者の経口与薬について考えることができる	①296-316 ②135-149
2	症候のアセスメントと看護	講義	痛み・痒みのアセスメントと看護について理解できる 不眠のアセスメントと看護について理解できる	①229-237、185-197②70
3		講義	便秘のアセスメントと看護について理解できる 下痢のアセスメントと看護について理解できる	①168-171 ②81・191-192
4		講義	脱水のアセスメントと看護について理解できる 浮腫のアセスメントと看護について理解できる	①238-241 ②66-68,57-58
5	高齢者の生活機能を整える援助	講義	高齢者の栄養状態の特徴について理解できる 高齢者の栄養ケア・マネジメントについて理解できる	①150-160 ②111-113
6	健康逸脱からの回復を促す看護	講義	脳血管障害の特徴と要因について理解できる 身体可動性障害を持つ高齢者の看護が理解できる	①254-257 ②150-159
7		演習・講義	関節拘縮予防のための関節可動域訓練 フレイルの簡易チェック・上腕周囲長測定	技術習得のあゆみ持参
8		講義	骨粗鬆症の病態と要因が理解できる 骨粗鬆症の予防と看護が理解できる	①275-281 ②237-240
9		講義	高齢者に多い骨折の特徴と要因について理解できる 大腿骨頸部骨折を持つ高齢者の看護が理解できる 転倒アセスメントと看護が理解できる	①278-282
10		講義	①熱中症になった高齢者の看護について理解できる ②高齢者に多い感染症について理解できる (MRSA・ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ・ﾉﾛｳｲﾙｽ・疥癬他)	①270-271 ②265・269
11		講義	前立腺肥大症を持つ高齢者の看護が理解できる 白内障を持つ高齢者の看護が理解できる	①97-99 ②228・253-254
12		講義	心疾患を持つ患者の看護が理解できる	①257-261 ②164-171
13		講義	高齢者に多い肺炎の特徴と要因について理解できる 誤嚥性肺炎の予防と看護が理解できる	①272-275 ②176-179
14		講義	パーキンソン病・パーキンソン症候群を持つ高齢者の看護が理解できる	①267-269 ②159-160
15	高齢者の退院支援 まとめ	講義・演習	家族介護状況の把握と分析が理解できる 介護への適応のための看護が理解できる	①343-344・381-382

受講上の注意

既習の知識と統合していくことを意識してください。

評価方法

筆記試験 85点
課題点　15点

使用するeテキスト

老年看護学（医学書院）
老年看護　病態・疾患論（医学書院）

使用するテキスト

参考となるeテキスト

参考文献

授業の中で紹介していきます

科目No. 72	配当時期	担当者
科目名　小児看護学方法論Ⅲ 時間割表記名　小児看護学方法論Ⅲ	3年次前期 単位数　1単位 時間数　20時間（10回）	倉　桂子

科目のねらい

さまざまな健康状態にある子どもと家族への看護過程の展開方法について学び、根拠に基づく計画的な看護実践ができる能力を培う。
また、小児看護技術の特徴と方法について学ぶ。

授業目標

1．小児看護技術の特徴と方法について理解できる
2．小児の対象特性及び、健康状態に応じた看護展開方法について理解し、根拠に基づく計画的な看護実践について考えることができる

ディプロマ・ポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
○	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探求しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

回数	学習内容	方法	学習成果
1	小児看護過程とは、情報収集　事例紹介	講義	1. 小児看護過程の特徴が理解できる 2. 小児の看護診断の情報収集・アセスメントの視点
2	関連図作成、診断名の確定	講義	1. 事例の関連図を作成し、診断名の確定ができる
3	援助計画の立案、看護の方向性	講義	1. エビデンスに基づき、事例の看護計画の作成ができる
4	小児看護技術① 「小児看護技術の基本」	講義	1．健康問題を持つ子どもに必要な小児看護技術の基本が理解できる
5	小児の看護過程の展開（その1）	講義 演習	1. 事例に対する援助計画実施・振り返りの視点が理解できる
6	小児看護技術② 「生活支援技術」	演習 (実習室)	1．子どもにとって必要な生活支援技術が理解できる （食事・排泄・遊びに対する環境整備・乳幼児の清拭）
7	小児看護技術③ 「診療の補助技術」	演習 (実習室)	1．子どもの看護に必要な診療の補助技術が理解できる　（バイタルサイン測定・身体計測・輸液管理・さまざまな固法）
8	検査や処置を受ける子どもと家族の看護	講義	1．検査や処置に対する看護が理解できる 2．事例の検査・処置に応じたプレパレーションが理解できる
9	小児の看護過程の展開（その2）	演習 (実習室)	1. 事例に対する援助計画実施・振り返りの視点が理解できる
10	小児の看護過程の展開（その3）	講義 演習	1. 事例に対する援助計画実施・振り返りの視点が理解できる

受講上の注意

課題・演習には主体的に取り組むこと
全ての資料はファイリングして、小児看護学Ⅱ実習に活用できるよう整理すること

評価方法

筆記試験：60点
課題点：30点
演習への参加・学習姿勢・態度：10点

使用するeテキスト

小児看護学概論　小児看護学総論（医学書院）
小児看護学各論（医学書院）

使用するテキスト

参考となるeテキスト

参考文献

講義の中で適宜紹介します

科目No. 75	配当時期 3年次前期 単位数 1単位 時間数 20時間（10回）	担当者 赤毛　智美
科目名　母性看護学方法論Ⅱ 時間割表記名　母性看護学方法論Ⅱ		

科目のねらい	ディプロマポリシーとの関連	
①マタニティサイクル（妊娠・分娩・産褥および新生児期）の基礎的な看護過程の展開を学ぶ ②母性看護に必要な看護技術を習得する	○	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
		2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
授業目標 分娩入院の対象の情報収集の基本を理解する 情報の解釈の基本を理解する 個別に必要となる看護の基本を理解する 産後の家族の生活に向けた看護の視点を理解する	○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
		4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
		5. 看護を探求しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

回数	学習内容	方法	学習成果
1回目	妊婦の看護	講義	受け持ち母児と家族の情報収集と情報の解釈ができる (基礎情報、妊娠期・分娩期・受け持ち日までの経過) 受け持ち母児に必要な看護技術について考え、演習できる
2回目	妊婦の看護にかかわる技術	演習	
3回目	産婦の看護	講義	
4回目	産婦の看護にかかわる技術	演習	看護の方向性を立てることができる 受け持ち母児に必要な看護技術について考え、演習できる
5回目	褥婦の看護	講義	入院中の褥婦に必要な看護を理解する 看護の実践（母児の観察／育児支援）と記録法を理解する
6回目	褥婦の看護	講義	
7回目	褥婦の看護にかかわる技術	演習	受け持ち母児に必要な看護技術について考え、演習できる
8回目	新生児の看護	講義	入院中の新生児に必要な看護を理解する
9回目	新生児の看護にかかわる技術	演習	受け持ち母児に必要な看護技術について考え、演習できる 新生児清潔への援助
１０回目	産後の家族について	演習	対象への個別的な支援を理解する （沐浴・母乳外来・2週間健診）

受講上の注意	評価方法
妊娠期、分娩期、褥婦と早期新生児の生理を理解したうえで、看護過程の展開に臨んでください	課題評価　８０点 小テスト　5点×４回（２０点）

使用するeテキスト	使用するテキスト
母性看護学各論（医学書院） 母性看護学概論（医学書院）	看護学テキストNiCE　母性看護学Ⅱマタニティサイクル（南江堂） 母子健康手帳（小冊子）
参考となるeテキスト	参考文献

科目No. 80	配当時期	担当者
科目名　精神看護学方法論Ⅲ 時間割表記　精神看護学方法論Ⅲ	3年次前期 単位数 1単位 時間数 20時間（10回）	石東　佳子

科目のねらい

精神看護学概論、精神看護学方法論Ⅰ・Ⅱを踏まえて、主な精神疾患の急性期・慢性期・社会復帰の看護過程を展開する能力を養う

授業目標

対象自身が自己のニードに気づき、それを充足していく過程を支援する看護について考察することができる

ディプロマ・ポリシーとの関連	
	1．人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
○	2．生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3．対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
○	4．チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5．看護を探求しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

回数	学習内容	方法	学習成果	課題・小テスト
1	ガイダンス 事前学習	講義・演習	科目の概要及び目的が理解できる。 事例の病態生理・看護の理解ができる。	課題20点
2 3	臨床判断	演習	うつ病にある対象の臨床判断ができる。	課題10点
4	事前学習	演習	事例の病態生理・看護の理解ができる。	課題20点
5 6	事例展開	演習	統合失調症に罹患している対象の看護が実践できる。	課題10点
7 8	事前学習	演習 発表準備	事例の理解ができる。 地域で暮らす精神障害者の事例展開 (地域→入院→地域　継続看護・多職種連携)	課題20点
9 10	事例展開	発表		発表15点

受講上の注意

①実習室での演習では、白衣を着用してください。
②事前学習課題は、これまでの学習を復習し、演習での行動に活かされるように、確実に実施してください。
③完全出席には、出席点があります。
④グループワーク時には、自己の責任を果たし、グループに貢献してください。

評価方法

展開した事例の課題・発表 3例（95点）
出席(5点)

使用するeテキスト

精神看護の基礎（医学書院）
精神看護の展開（医学書院）

使用するテキスト

科目No. 81	配当時期 3年次全期	担当者
科目名　看護の統合と実践Ⅰ 時間割表記名　看護の統合と実践Ⅰ（前半）	単位数 1単位／2単位 時間数 20時間（10回）	森田　真帆

科目全体のねらい

既習の知識・技術を統合し、対象者の健康状態に応じた看護を実践する能力を育成することが主たるねらいであると同時に、看護師をめざす者として主体的な学習活動を期待するものである。

授業目標

対象の状況に応じた看護を、根拠に基づき実践することができる。
3年次の領域別実習に向け、自己の課題を明確にすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関連	
○	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
○	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探求しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

【前半】

回数	学習内容	方法	学習成果
1回目	演習の進め方 グループ決定、演習計画を立てる scenarioの提示、事前学習	講義	1.演習の意義、目標を理解することができる 2.scenarioの患者を理解することができる
2回目	シミュレーション演習1－①	技術演習	1.scenario患者の状況に応じた観察ができる
3回目	シミュレーション演習1－②	技術演習	1.scenario患者の観察を通して健康状態を捉えることができる
4回目	プレOSCE 1	技術演習	1.scenario患者に必要な看護を行うことができる
5回目	演習の進め方 scenarioの提示、事前学習	講義	1.演習目標・方法を理解することができる 2.scenarioの患者を理解することができる
6回目	シミュレーション演習2－①	技術演習	1.scenario患者の状況に応じた観察ができる
7回目	シミュレーション演習2－②	技術演習	1.scenario患者の観察を通して健康状態を捉えることができる
8回目	プレOSCE 2	技術演習	1. scenarioの患者に必要な看護を行うことができる
9回目 10回目	OSCE	技術試験	1.自己の技術到達状況を客観的に評価し、課題を明確にできる 2.看護実践能力における自己の課題を明確にする

受講上の注意

1. これまでの学びを統合する授業です。知識・技術だけでなく、倫理的な態度も求められます。基本的な技術方法は理解した上で主体的に取り組んで下さい。
2. 具体的には、事前学習の強化、準備・後始末も全て学生中心で行って下さい。
3. グループでの行動も多い授業です。リーダーシップ・メンバーシップを発揮し、協同の精神を養って下さい。
4. 実習室使用に当たっては、その使用方法を遵守し、後輩の手本となるよう行動して下さい。
5. 第9回、第10回目のOSCEは2コマ続きになります。

評価方法

課題　30点
OSCE　20点

使用するeテキスト

使用するテキスト

参考となるeテキスト

参考文献

科目No. 81	配当時期	担当者
科目名　看護の統合と実践Ⅰ 時間割表記名　看護の統合と実践Ⅰ（後半）	3年次全期 単位数 1単位／2単位 時間数 20時間（10回）	倉　桂子

科目全体のねらい

既習の知識・技術を統合し、対象者の健康状態に応じた看護を実践する能力を育成することが主たるねらいであると同時に、看護師をめざす者として主体的な学習活動を期待するものである。

授業目標

対象の状況に応じた看護を、根拠に基づき実践することができる。
４年次の領域別実習・統合実習に向けて、自己の課題を明確にすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関連	
○	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
○	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探求しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

【後半】

回数	学習内容	方法	学習成果
1回目	演習の進め方、グループ決定 scenarioの提示、事前学習	講義	1.演習の意義、目標を理解することができる 2.事例の演習目標・方法を理解することができる
2回目	シミュレーション演習1-①	技術演習	1.入院患者の情報収集をすることができる 2. scenarioの患者を理解することができる
3回目	シミュレーション演習1-②	講義 技術演習	1.入院患者の情報収集をすることができる 2.scenarioの患者を理解することができる
4回目	シミュレーション演習1-③ scenarioの提示、事前学習	技術演習	1.入院患者の情報収集をすることができる
5回目	シミュレーション演習2-①	講義 技術演習	1. 事例の演習目標・方法を理解することができる 2. 患者の状況に合わせた看護を行うことができる
6回目	シミュレーション演習2-②	技術演習	1. 患者の状況に合わせた看護を行うことができる 2. scenarioの患者を理解することができる
7回目	OSCEシナリオ事前学習 OSCEに向けての自主練習	講義 技術演習	1. scenarioの患者を理解することができる 2. OSCEに向けての課題を明確にすることができる
8回目 9回目	OSCE	技術試験	1. OSCEを通して、自己の実践力を理解することができる
10回目	知識確認試験 振り返りとまとめ	講義 技術演習	1. 看護実践能力における自己の課題を明確にすることができる

受講上の注意

1. これまでの学びを統合する授業です。知識・技術だけでなく、倫理的な態度も求められます。主体的に取り組んで下さい。
2. 具体的には、事前学習の強化、準備後始末も全て学生中心で行って下さい。
3. グループでの行動も多い授業です。リーダーシップ・メンバーシップを発揮し、協同の精神を養って下さい。
4. 実習室使用に当たっては、その使用方法を遵守し、後輩の手本となるよう行動して下さい。
5. 第8回、第9回目のOSCEは２コマ続きになります。

評価方法

課題　30点
OSCE　20点

使用するeテキスト

資料を配布します

使用するテキスト

参考となるeテキス

参考文献

科目No. 84	配当時期 3年次全期	担当者 おの　みゆき 小野　美雪
科目名　家族看護学 時間割表記名　家族看護学	単位数 1単位 時間数 16時間（8回）	ディプロマポリシーとの関連

科目のねらい

家族の機能や家族の多様性を捉え、患者・家族に必要な看護について学ぶ

授業目標

家族看護の意味、発展と変遷、看護の対象である家族の課題を理解する。
家族看護に関する理論や介入法、看護展開の基本的構造を理解する。
さまざまな場面における家族看護の展開を考察する。
家族看護における看護師の役割を理解する。

	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
○	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
○	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探求しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

回数	学習内容	方法	学習成果
1回目	家族看護とは	講義	家族看護の発展と変遷、その特徴を理解する 家族看護の目指すところ、その実践の場面を理解する
2回目	家族看護の対象となる家族とは	講義	看護学からみた家族の特性を理解する 現代家族の様相、その多様性、その課題を理解する
3回目	家族看護の理論と展開法	講義	家族看護の理論や介入法、家族アセスメントモデルを知る 家族看護の看護過程の基本の構造を理解する
4回目	さまざまな場面における家族看護の実践①	講義 演習	〈さまざまな看護の場面の事例〉 急性期患者の家族、慢性期患者の家族、 終末期患者の家族、障害を持つ患者の家族、 小児患者の家族、精神疾患患者の家族、 高齢の患者の家族、　周産期の家族 さまざまな家族看護の実践を演習を通して学ぶ
5回目	さまざまな場面における家族看護の実践②	講義 演習	
6回目 7回目	さまざまな場面における家族看護の実践③	講義、演習	
8回目	家族看護と看護師の役割	講義	家族看護の意義と看護師の役割を考察する

受講上の注意

あらためて自己の家族観を見つめなおし、現代の多様な家族の在り方を理解しましょう。
家族看護の本質を理解し、その意義、看護師の役割についてしっかりと考察しましょう。

評価方法

課題　100点

使用するeテキスト

家族看護学（医学書院）

使用するテキスト

参考となるeテキスト

参考文献

科目No. 89	配当時期	担当者
科目名　看護の探求 時間割表記名　看護の探求	3年次全期 単位数 1単位 時間数 20時間（10回）	山本 絵奈

科目全体のねらい

看護を探求する能力を育成する

授業目標

看護理論を深めることができる

自己の看護を論理的に振り返りケースレポートとしてまとめることができる

ディプロマ・ポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
○	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探究しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

回数	学習内容		備考
1	看護を探求する意義、ケースレポートについて 看護理論を深める（看護の主要概念について）		
2	グループで考察したい事例を検討し、その事例の課題解決のための看護理論を選択する。選択した看護理論の「前提」「概念」「命題」を学習する		出席・取り組み状況（5点）
3	選択した看護理論の4つの概念（人間・健康・環境・看護）を明確にする。「命題」を明確にする（概念間の関連図を作成し関連付ける）		出席・取り組み状況（5点）
4	事例検討（事例紹介、考察、結論）、発表資料の作成		出席・取り組み状況（5点）
5	看護理論　発表会		出席・取り組み状況（5点） 成果物/発表　20点（グループ点）
6	自己の看護の探求の実際 自己の事例を看護理論を用いて深めることができる （領域別実習期間中にケースレポートを記載する）	ケースレポート指導 担当教員	ケースレポート　35点
7	ケースレポート　発表会（小集団）		出席・取り組み状況（10点）
8	ポスターセッション（準備）		
9 10	看護の探求 ポスターセッション・宣誓の日参加	1・2年 合同授業	出席・取り組み状況（15点）

受講上の注意

実践を振り返るプロセスを通して、より良い看護を模索する機会です

- ●ケースレポートは計画的かつ主体的に実施し、担当教員に助言を受けること
- ●記載方法は学習の手引き「執筆要領」を参照すること
- ●担当教員との調整等は、学習者としてのマナーを守ること

評価方法

出席・取り組み状況　45点

課題レポート　55点

使用するeテキスト

看護学テキストNiCE　看護理論（南江堂）

使用するテキスト

参考となるeテキスト

参考文献

科目No. 90	配当時期	担当者
科目名　看護研究Ⅰ	3年次全期	なかの まさこ 中野 雅子（12回） 柴田 明美（7回） 宮本 志乃（1回）
時間割表記名　看護研究Ⅰ	単位数　2単位	
	時間数　40時間（20回）	

科目全体のねらい
看護研究についての基本的な知識を習得し、研究的態度を育成する

授業目標
1．看護研究における基礎的知識を理解できる
2．自らテーマを持ち、研究計画書、倫理審査申請書を作成できる

ディプロマ・ポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
○	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探求しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

時期	回数		学習内容	方法	学習成果	備考
4月	1	中野 1	看護研究とは何か ＜調べることや研究することを楽しもう＞	講義	①調べることと研究の違いがわかる ②看護研究の意義・役割・重要性がわかる	
5月	2	中野 2	研究における倫理的配慮 看護研究のはじめ方	講義	①欧米や日本の看護研究の歴史を知る ②看護研究における原理原則がわかる ③研究疑問のレベルがわかる	
	3	中野 3・4	研究デザイン ＜設計と方法の選択＞	講義	①質的研究と量的研究の違いがわかる ②質的研究、実態調査研究、相関研究、実験・準実験研究について概要がわかる	
	4		データの収集 ＜何をどこからどうやって集めるのか＞	講義	①インタビュー、アンケート、開発された尺度の活用、観察法、生理学的測定などの調査方法についてわかる	
	5	中野 5・6	データ分析方法 ＜質的データと量的データの違い＞	講義	①テキストデータ分析の特徴を知り、模擬体験する ②量的データ分析の手順を知り、統計の分析を模擬体験する	
6月	6		調査研究のすすめ方	講義	①実態調査研究の対象や解析方法がわかる ②相関研究のデータ項目や検定方法がわかる	
	7	中野 7・8	文献研究・実践報告のすすめ方	講義	①文献検索と文献内容の分析方法がわかる	
	8		リサーチクエスチョン ＜研究テーマの選定＞	講義 演習	①自己の研究テーマ選定に向けて、リサーチクエスチョンを抽出必要性がわかる	
11月	9	中野 9・10	4年次生看護研究発表会 (11月　日予定)	聴講	①看護研究発表の運営がイメージできる ②発表での工夫点を見つけ、わかりやすい伝え方を考えることができる	
	10					
1月	11	宮本	情報の探索と吟味 ＜文献検索をマスターしよう＞	講義 演習	①文献検索の方法がわかる ②文献検索データベースを用い論文入手できる	
	12	柴田 1	研究計画書	講義 演習	①研究計画の書式と書き方がわかる ②倫理審査申請書の書き方がわかる	
	13	柴田 2	プロジェクトチームの決定 文献クリティーク ＜文献カードの作成＞	講義 演習	①リサーチクエスチョンを共有し、プロジェクトチームを結成する ②研究テーマの方向性を決め、文献検索や資料収集ができる	
	14	柴田 3・4	文献の共有、研究テーマの決定 研究計画書の作成①	チーム取り組み	①プロジェクトメンバーに対し、文献クリティークのプレゼンができる ②プロジェクトチームで研究テーマ・研究手法を決定し、書式に基づいて研究計画書を作成できる	
	15					
2月～3月	16	柴田 5	研究計画書の作成②	チーム取り組み		
	17	柴田 6	研究計画書の作成③（中間報告）	チーム取り組み	①プロジェクトチームごとに、中間報告（研究計画）ができる ②看護研究取り組みに当たっての、悩みや疑問点を質問できる	
	18	柴田 7	倫理審査申請書の作成	チーム取り組み	①研究計画書を完成し、倫理審査申請書が作成できる	
	19	中野 11・12	研究計画書・倫理審査申請書の見直し	講義	研究委計画書・倫理審査申請書について質問し、研究の質を高めることができる	
	20					

受講上の注意
- 課題提出・演習参加・聴講参加・面接指導・発表について、あらかじめ指示された時間や様式などのルールを守ること
- 看護にまつわる疑問や興味関心事を日ごろから記しておく

評価方法
①レポート課題：10点（個人）
②文献検討：各30点（グループ・個人）
③研究計画書：30点（グループ）
＊出席状況を上記に含む

使用するeテキスト
看護研究（医学書院）
参考となるeテキスト

使用するテキスト
参考文献
『黒田裕子の看護研究Step by Step』第5版、黒田裕子著、医学書院、2017.

科目No. 92	配当時期	担当者
科目名　看護実践強化セミナーⅠ	3年次全期	阿形奈津子
時間割表記名	単位数	
看護実践強化セミナーⅠ	2単位	
	時間数	
	30時間（15回）	

科目のねらい

対象の健康問題に応じた看護が実践できる人材を育成するために、看護基礎教育でその習熟度を高めたい技術として救命救急の技術力を高めていく。

授業目標

1．救急時に必要となる基本技術を確実に習得することができる
2．救命救急技術を他者に指導し、自己の指導技術について振り返ることができる

ディプロマ・ポリシーとの関連	
	1. 人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
	2. 生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
○	3. 対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
○	4. チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
○	5. 看護を探求しつづける力を身につけている

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）

回数	学習内容	方法	学習成果
1回	ガイダンスと計画立案	講義・ワーク	講義概要・【演習１】ガイダンスと演習計画立案
2～4回	【演習１】BLS指導発表会に向けたワーク	GW	【演習１】の学習・指導発表会に向けたワーク
5～8回	京都市消防学校 上級普通救命講習会　受講	技術講習 必須！！	BLSの技術習得・救命処置の習得修了書を持って20点配点
9～11回	【演習１】講習会を受講したうえで指導者発表会にむけた指導案の追加・修正 【技術試験】個別にBLSの技術チェック（練習後に自己申請）	GW 技術試験	１．実際の技術指導を受け講習会の実施に向け指導案・技術指導内容の具体化 ２．確実な技術習得に向けた個別の技術チェック（メンバー全員が合格が必須）
12・13回	【発表会準備】 物品の調整・準備 指導対象グループへの依頼事項と参加の調整	会場確認 指導案・資料の作成	発表に向けた最終確認（会場設営・物品・参加者への依頼の確認）・役割決定（全体運営）
14・15回	【BLS指導の発表会】各グループ対象者（1年次）に指導の実施	発表会 講堂	１．１年次にBLS指導を実施し、評価を受ける。 ２．実施・評価をふまえた自己の学びと課題のレポート作成

受講上の注意

この授業はBLSの確実な技術習得を目指します。京都市消防学校での1日の上級普通救命講習会が必須科目です。当日は、遅刻も修了書発行対象外となります。遅れないように、確実に参加してください。（配点20点）次に、習得した技術が確実に身についているか、技術試験を実施します。各自、技術練習が十分にできたら技術試験日を決定し、実施します。※注意事項として、個人の到達ですが、技術指導はグループで実施しますので、全員が技術試験に合格していないと発表会（指導会）はできません。グループで協力して合格してください。

評価方法

上級普通救命講習会修了書（必須）20点
普通救命講習会の指導案作成20点
模擬講義・グループ評価　20点
技術試験　20点　　課題レポート　20点
以上をもって総合評価します

使用するeテキスト

使用するテキスト

上級普通救命講習会（小冊子）

参考となるeテキスト

救急看護学（医学書院）

参考文献